

卒業企業訪問

デジタルセンセーション(株)さんは、静岡大学情報学部・竹林洋一教授(当時、現在は静岡大学大学院情報学研究科教授)の研究成果を事業化するため、平成16年10月に設立された会社です。HI-Cubelには平成18年9月に入居しました。現在は浜松アクタワーに拠点を構え、精力的に活動をしております。坂根社長にお話を伺いました。

■HI-Cubelに入居した経緯は？

設立当初は静岡大学内のインキュベーション施設に入居しておりましたが、社員が増えたことに伴い「まとまったスペースを確保したい」と思うようになりました。そんな中、ちょうど静岡大学近隣にHI-Cubeという施設ができるという話を聞いたので、入居を決めました。

■入居しての感想は？

静岡大学内の自動販売機に比べ、ジュースが安かったのはありがたかったです(笑)
また職業柄遅くまで業務をすることも少なくなかったため、24時間施設の利用が可能だったことや、シャワー室もあったことは、今思うとよかったなあと思います。

■今、力を入れていることは？

ユマニチュード(注)の日本国内の普及事業です。現在は東京を中心に研修会を開催していますが、当社はIT企業ですので、情報発信やインストラクタ育成を加速するプラットフォームを開発したいと考えています。

デジタルセンセーション株式会社

〒430-7712
浜松市中区板屋町111-2 浜松アクタワー12階
TEL 050-6860-5522
<http://www.digital-sensation.jp/>



アクタワーのオフィスでパチリ!

■HI-Cubeでの思い出を一言

静岡大学と近かったこともあり、たくさんの学生と遅くまで仕事ができること。また、居室内は部活の合宿みたいな雰囲気があり、そのお陰でアットホームな感覚で仕事できたことは、今になって振り返るとよい思い出だったと思います。

(注)について:
フランスのイブ・ジネストとロゼット・マレスコッティ両氏により開発された、認知症の人との関係性を築くためのコミュニケーション技法。 <http://igmj.org/>

開催レポート

ビジサポ会「初めてのチャレンジ！ 支援施策を活用した成長戦略の手法 ～公的支援制度を活用した新製品 ・新サービスの開発～」

★講師 坂下 太一 氏

坂下太一税理士事務所 所長



2月26日(木)、HI-Cube2階会議室において、ビジサポ会を開催しました。

今回は、浜松商工会議所で長年経営指導員として活躍し、現在は坂下太一税理士事務所の所長を務められている坂下氏を招き、新製品・新サービス開発に使える公的支援制度の紹介や、申請に当たってのポイント等をお話いただきました。

「申請書作成のテクニック」という話ではなく、「そもそも公的支援を提供する側はどういう意図で補助事業を行っているのか」という考え方までさかのぼった上での説明は分かりやすく、参加者からも「有意義だった」との声を多数いただきました。

今回のPoint!

(1) 中小企業施策に対する国の考え方を知る

基本的な考え方は、「中小企業と大企業との格差是正」から、「やる気と能力のある中小企業の支援」へ移行している。

(2) 自社の課題解決のために補助金を活用する

単に「設備がほしいから、補助金を活用したい」では採択されない。「補助金を活用すると、自社の課題解決が可能」という文書にする。

(3) 自社の状況を客観的に分析する

自社の強み・弱み、自社が置かれている環境の分析(SWOT分析)が不可欠。

